

清流

名付けて…「one by one プロジェクト」

「ベクトル」…高校時代、数学や物理で何度も赤点を取った経験がある私は、あまり聞きたくない言葉です。

このベクトルの考え方は、現在、中学校の理科や高校の数学等で学習する内容なので、保護者の方々も大体はお分かりいただけるのではないかと思います。力とその方向の関係で合力を求める考え方です。簡単に言えば、まったく同じ方向の同じ力が二つあれば、その合力は2倍になるし、逆に、まったく同じ力が正反対の方向に働けば、その力は相殺されて0になってしまうというものです。このベクトルの考え方は、よく集団の人の力を表すときにも使われます。集団を構成するメンバーの目指す方向が同じであれば、個々の力は結集され大きな推進力となりますが、メンバーの目指す方向がばらばらであれば、力は分散され、一つの方向に向かって進んでいくことができない、ということになります。

このことは、職員がチームとして機能している学校現場にも当てはまることだと思います。まずは、私たち教職員の方向性をどれだけ揃えることができるかが、大きな鍵だと考えています。全員が子どもたちのために頑張ろうと思っているのですが、一人一人が別人格の異なる人間ですから、全員揃ってまったく同じ方向を向くことは難しいのです。しかし、一つの方向へ揃えようと自分の心に折り合いを付けたり、その方向性に近づけようとしなやかさを発揮したりすることは、必ずできると考えています。

そこで、考えたのが、名付けて…「one by one プロジェクト」

本校の子どもたちの実態は、「明るく、元気で子どもらしい」という素晴らしい面はあるのですが、同時に大きな課題を抱えているのも事実です。それは「規範意識、他者意識・自己肯定感の不足」だと捉えています。その課題に対して昨年度から推進しているのが「四つのあ」を中心にした「あたりまえをあたりまえに」という取組です。「one by oneプロジェクト」は、その「四つのあ」を中心とした「あたりまえをあたりまえに」実践できる子どもを目指して、各教師一人一人が一つずつ取組と目標値を設定して評価まで行う実践です。(授業や子どもの指導に直接関わる職員16名が取り組みます。)この通信面では、それぞれがどのようなプロジェクトを推進しているのかまで触れる余裕がありません。しかし、今年度、甲佐小では、教育目標を達成するために、「あたりまえをあたりまえに」実践できる児童の育成を目指し、16のプロジェクトが着々と進められていくのです。それぞれのプロジェクトは、「何を」「いつまでに」「どのような方法で」「どうする」のか、計画され進められていきます。

しかし、冒頭のベクトル論とどのようにつながるのだろう、と思われるかもしれませんが、私の中では、しっかりとつながっているのです。これらのプロジェクトの計画にあたっては、私が「四つのあ」を中心にした「あたりまえをあたりまえに」という方向性を示しつつ、必ずそれぞれの教師の「自己決定性」を大切にしてきました。計画を進める段階で、それぞれの教師に確認を取りながら進めたのです。示された方向性の中で「自分は何をすべきか、何をしたいのか、何ができそうか」、それを取り入れることができるような過程を踏みたかったからです。この過程こそが、方向性をまったく同じにはできないけれど、折り合いを付けたり、しなやかさを発揮したりできる部分だと考えたのです。そして結果的に、できるだけベクトルを同じ方向に揃えることにつながろうとしたのです。

さて、この「one by one プロジェクト」がどんな内容で、どのように進んでいくのか、保護者の方々には、今後見守っていただければと思います。さらに、「地域とともにある学校」の重要なメンバーである、保護者の方々や地域の方々のお力も、できるだけ同じ方向に向かえばいいな、と願っています。

この「清流」は、そんな願いも含めて始めたものでもあるのです。

【この取組と関連した児童に育みたい資質・能力の数値目標をHPIに公開しました。そちらもご覧下さい。】